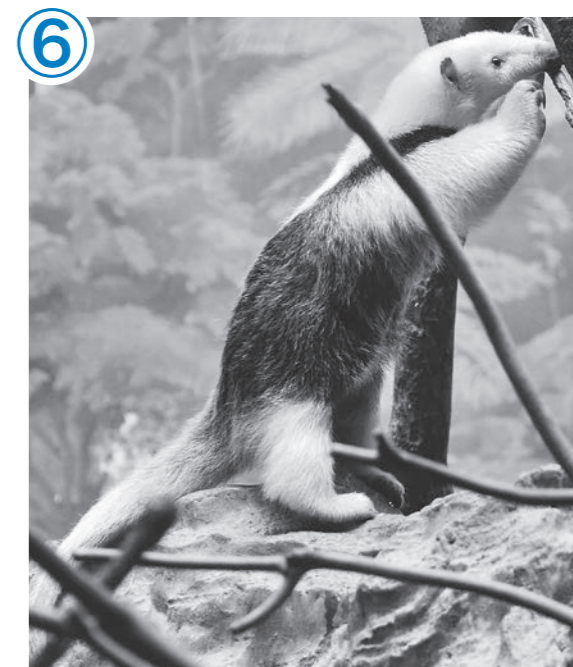


親子クイズ 552

Q 県立のいち動物公園の動物たちです。あなたはいくつの動物の名前を知っていますか？①～⑥までの動物の名前を書いて応募してください。



市民からのお便り (親子クイズ) どうしてもほしい本が何冊あるので、当たってほしいです。

【第551回解答】

アイスクリン

【第551回当選者】

- 藤崎 洋子 (明見)
- 黒木 泰 (後免町)
- 渋谷 幸子 (植野)
- 高井 美佐子 (植野)
- 浜田 勝英 (前浜)

★応募総数/91通 ★正解率/100%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

- 応募締切/5月11日(金)必着
- あて先/〒783-8501 南国市大塚甲2301 南国市企画課「親子クイズ係」
*はがきで応募
- 賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

ふれあいしながて 85 人権学習シリーズ

「今日こんなことがあってねえ。身回りの出来事や嬉しい時、悲しい時、腹が立った時など、私達は日常的に人と話をする。誰かに話を聞いてもらうことで混乱していた心の中が整理できたり、イライラした気持ちが取まったりする。本当に「聞く」ことの難しさ、大切さが分かってきたのは割と最近のことだ。業務の中で、実際の業務とは関係のない話を延々と聞くこともある。友人や同僚から、日々を生きていく中で湧いてくる数々の悩みや問題を聞くこともある。

話をきく

この胸の内を誰かに聞いてもらいたい、受け入れてもらいたいというのは、多かれ少なかれ誰もが持っている気持ちではないだろうか。具体的に何か解決したり、前進したりしなくても、実はとても大切なことだと思う。

最近「傾聴(※)」という言葉が広まり、人に聞いてもらうことの効用について少しずつ浸透してきたように思う。

話し方は人それぞれで、一から十まで詳しく説明する人、理路整然とまとめて話す人、感情が高ぶっているためか、支離滅裂な話をする人などなど…。そしてそれを、ただ「聞く」といっても、相手の感情に引きずられないように、相手が話しやすい

ように聞くことは意外に難しいと感じる。

私は話をすることが苦手な、昔から専ら聞く側だった。今思えば、どうしたらこんなふうになるのか、もっと上手に話せるようになりたいと、聞くこともよ

りも話すことのほうに興味を持って聞いていた。自分のために時間を共有してくれる相手がいるということは、自分の存在が受け入れられている、認めてもらえている証であり、心の安定の源にもなる。資格も年齢も関係なく、ただ目の前の相手の話を誠実に聞くことが、相手の心を軽くする手助けになるかもしれない。ほんの少し、自分の時間を誰かと共有して、お互いの話をゆつくり聞いてみよう。

※相手の話をそのまま受け入れて熱心に聞くこと。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
880・6569

なんこく歴史散歩 第64回

南国市稲生の下田橋(通称河童橋)の北詰に、三つの石碑が建てられています。これらの石碑は、稲生の石灰工業が繁栄するのに貢献した三人を称えるものです。その中一番東にある碑には、「石灰頭司 徳右衛門君 記念碑」と記されています。

徳右衛門が阿波の国から下田村(南国市稲生)に来たのは、文化年間(1804~1817)と記されています。四国巡礼の途中、下田村付近で行き倒れ、土地の人に助けられました。体調が回復した徳右衛門は、下田村に良質の石灰石があることを知り、恩に報いるため、石灰窯の築き方と石灰の製造法を伝えました。その後阿波に帰りましたが、阿波の石灰焼きの秘法を他国へ漏らしたとして、処罰されそうになったので、再び下田へ戻りました。しかし誰一人庇護する者はなく、各地をさまよった末、室戸の羽根に行き、柳屋金十郎康利の世話になりました。そのお礼として柳屋の手代である慶藏に石灰の製造法を伝えました。柳屋は下田村にやって来て石灰の製造を始めました。それが稲生で石灰工業が栄える基になりました。

徳右衛門

その時、徳右衛門が伝えたと言われているのが、今も稲生の石灰工場に使われている「徳右衛門型かまど」と呼ばれているものです。このかまどに燃料の石灰やコークスと石灰石を層になるように交互に入れ、塩を入れて焼いていきます。3日ほど焼くと、

ろくなった石灰が取出口から出てくる仕組みになっています。上に隙間ができると石灰や石灰石を加えていくので火が消えることがありません。こうして長時間焼いた石灰は、不純物が取り除かれ、大変質のよい、粘りのある石灰に仕上がります。

徳右衛門型かまどで焼かれた土佐石灰は品質の良さが評判で、西日本の市場に広まり、販路が開けていきました。徳右衛門は稲生の石灰工業の恩人とも言えるべき人であり、彼が伝えた徳右衛門型かまどは今も稲生の石灰製造を支えています。



石碑(稲生)



石碑(稲生)

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
8802・6062

市民からのお便り (親子クイズ) 気温が上がってアイスクリンが美味しい気候になりました。当選するのを楽しみにしています。